

町田市スポーツ施設整備構想

提言書

(案)

平成 30 年 3 月

町田市スポーツ施設整備構想懇談会

はじめに

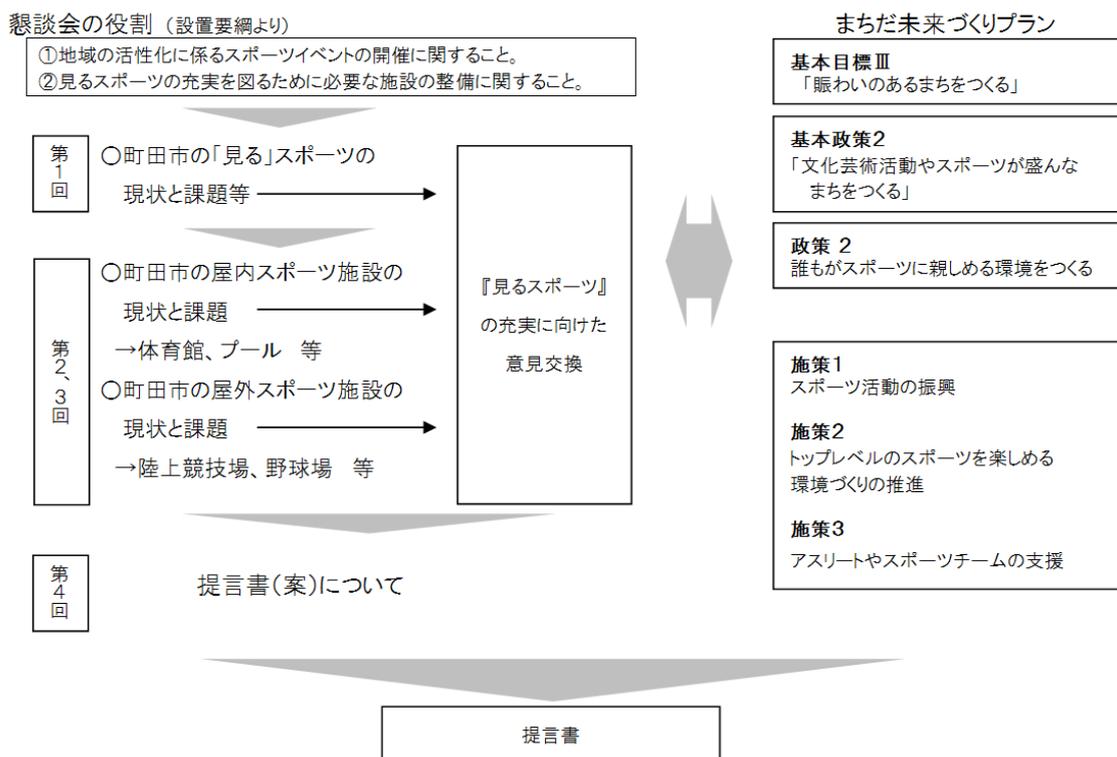
目次

はじめに

1. 懇談会の概要.....	1
2. 町田市のスポーツ推進の現状.....	2
(1) 市の基本計画におけるスポーツの位置付け.....	2
(2) 町田市5ヵ年計画 17-21.....	2
(3) 2017年度 スポーツに関する市民意識調査アンケート.....	3
(4) 町田市のスポーツ施設の現状.....	4
(5) スポーツを取り巻く状況の変化等.....	4
3. 町田市のスポーツ施設整備懇談会の進め方.....	5
3-1. 基本的な方向性（総論）.....	6
3-2. 各スポーツ施設についての提言（各論）.....	7
(1) 陸上競技場における見るスポーツの充実について.....	7
(2) 体育館における見るスポーツの充実について.....	9
(3) 野球場における見るスポーツの充実について.....	11
(4) プールにおける見るスポーツの充実について.....	13
4. 参考資料.....	15
(1) 懇談会の開催経過.....	15
(2) 委員名簿.....	16
(3) 近隣市との施設の比較.....	17
(4) その他資料.....	20

1. 懇談会の概要

町田市スポーツ施設整備構想懇談会（以下、「本懇談会」という。）では、町田市スポーツ推進計画におけるスポーツ施設整備構想の策定に関してスポーツ関係者等の意見を聴取し、「地域の活性化に係るスポーツイベントの開催に関すること」や「見るスポーツの充実を図るために必要な施設の整備に関すること」について検討し、屋内スポーツ施設と屋外スポーツ施設それぞれについて意見交換を行った。



2. 町田市のスポーツ推進の現状

(1)市の基本計画におけるスポーツの位置付け

まちだ未来づくりプラン

将来の町田市のあるべき姿を見据え2012年度から2021年度までの10年間に、何を目標に、どのようにまちづくりを進めていくのかを示す町田市の基本計画

町田市5カ年計画 17-21

「まちだ未来づくりプラン」の後期実行計画

基本目標Ⅲ

「賑わいのあるまちをつくる」

基本政策2

「文化芸術活動やスポーツが盛んなまちをつくる」

【目指す姿】

市民のスポーツ活動や、活動を通じた交流が盛んに行われ、トップレベルのスポーツを体感できる環境に多くの人が集い、感動や興奮を味わっている。

政策2

誰もがスポーツに親しめる環境をつくる（重点事業プラン）

【政策の取り組みの方向】

誰もがスポーツに親しむことができるよう、市民のスポーツ活動の振興や、トップレベルのスポーツを楽しむ環境づくりに取り組みます。

(2)町田市5カ年計画 17-21

■政策2 誰もがスポーツに親しめる環境をつくる

施策2 トップレベルのスポーツを楽しむ環境づくりの推進

重点事業5 野津田公園スポーツの森の整備（基本計画体系Ⅲ-2-2-2）

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の中で楽しむ総合スポーツパークを目指し、多目的グラウンドやテニスコートを拡張区域に新たに設けるとともに、幅広いスポーツやレクリエーションを楽しむように公園全体を再整備します。 ・プロスポーツなどの大きなスポーツ大会に対応する競技環境と観戦設備を整備します。 		
目標	① 拡張区域整備 ② 大型映像装置整備 ③ 観客席増設	目標値	① 用地取得完了 ② 2017年度整備完了 ③ 2020年度整備完了

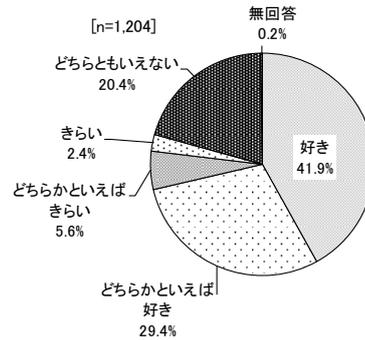
(参考) 整備スケジュール

年度	2017年度	2018年度	2019・2020年度
大型映像装置	整備工事		
観客席増設	基本設計	実施設計	整備工事

(3)2017 年度 スポーツに関する市民意識調査アンケート

問 あなたは、スポーツを観ることが好きですか？(○は1つ)

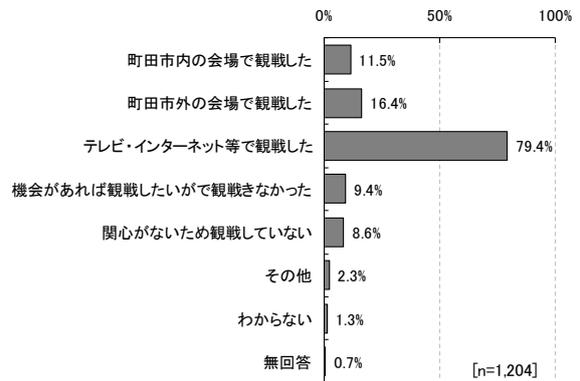
好きという主旨の回答は合わせて **71.3%** となっている。



問 あなたは、この1年間でスポーツを何らかの形で観る機会がありましたか？

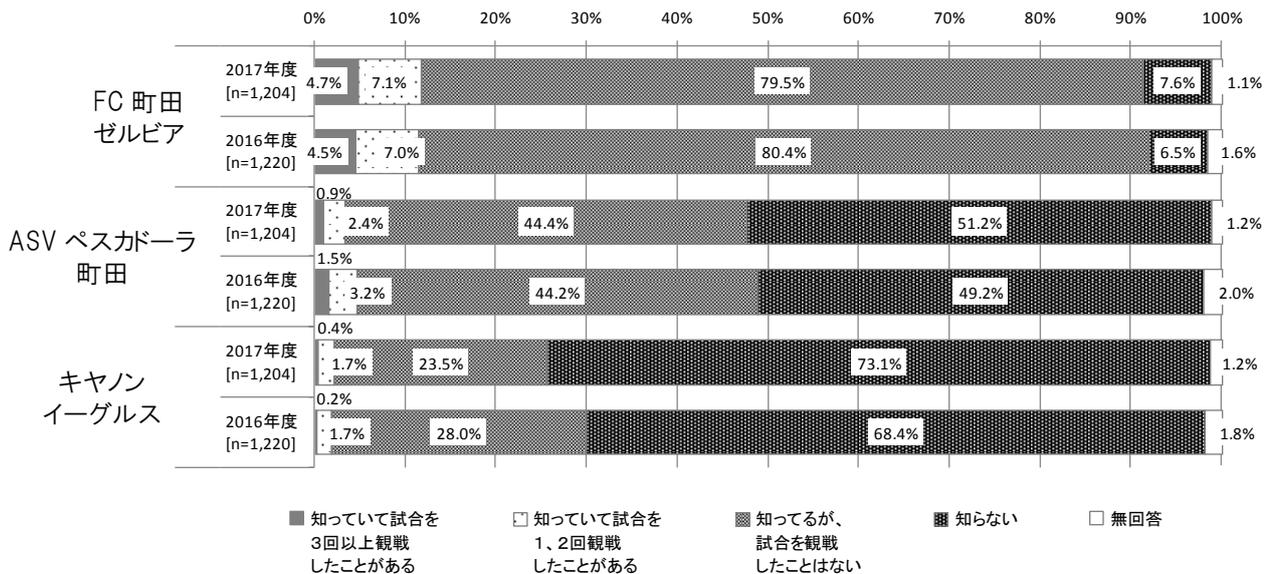
(○はいくつでも)

町田市内で観戦したという回答は **11.5%** となっている。



問 ホームタウンチームの認知度

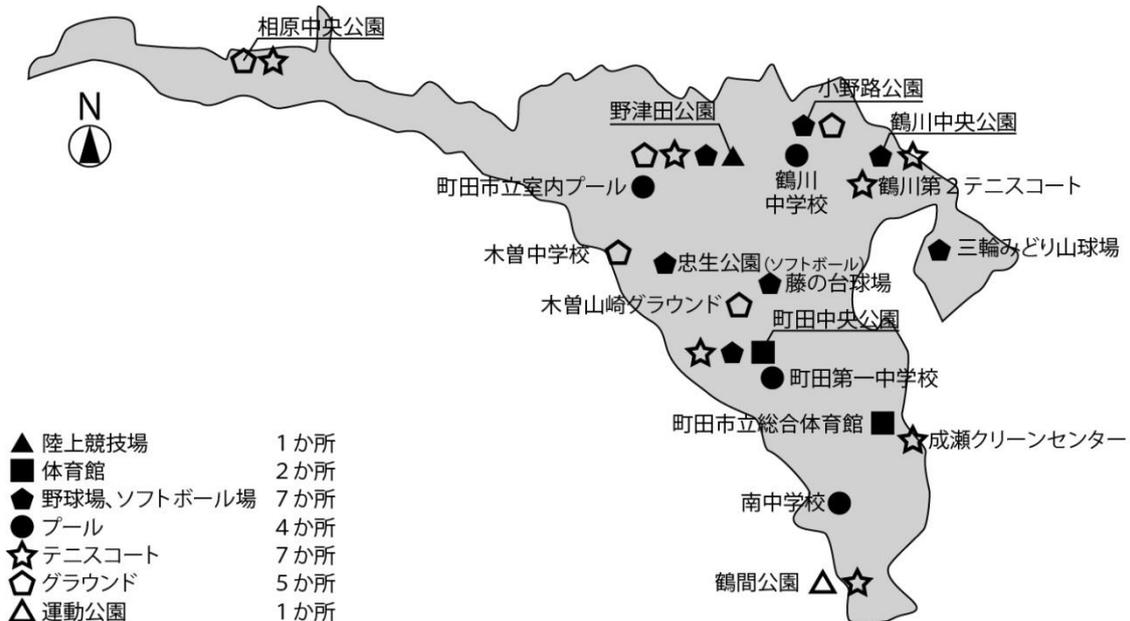
チームの認知度は、2017 年度調査において「FC 町田ゼルビア」が 91.3%、「ASV ペスカドーラ町田」が 47.7%、「キャノンイーグルス」が 25.6%となっている。



(4) 町田市のスポーツ施設の現状

町田市内にある主なスポーツ施設は以下の図のように分布している。本提言書でふれた施設（P.7以降に記載）は黒塗りの記号で示している。

市民の生活の身近な場所でスポーツに親しめるよう、市内各所にスポーツ施設を配置しているほか、学校施設の開放も行っている。



(5) スポーツを取り巻く状況の変化等

2011年に施行されたスポーツ基本法をはじめ、スポーツ基本計画の策定（2012年）、スポーツ庁の設置（2015年）、スポーツ産業の活性化を推進するスポーツ未来開拓会議の発足（2016年）、第2期スポーツ基本計画の策定（2017年）とスポーツを取り巻く状況は近年、変化してきている。

スポーツ庁は、経済産業省とともに、スポーツによる地域振興及び地域経済の自律的成長に向け、地方公共団体が中心となって取り組むスタジアム・アリーナ整備に関して検討すべき項目を整理するため、スタジアム・アリーナ推進官民連携協議会のもとで「スタジアム・アリーナ改革ガイドブック」を作成した。

また、2020年そしてそれ以降も「スポーツによる地域活性化」を支える人材が輩出されるように、地域活性化の取組を全国から12事例選定し、“まんが”で紹介する事例集を制作し、普及啓発等にも取り組んでいる。

スポーツを通じた地域の活性化は、経済的な効果のみならず、社会的な効果も期待ができることから、「見る」環境の整備は昨今、スポーツ施策の推進において大きな課題の1つと捉えられているといえる。



事例：「vol.6 サッカーで地域を盛り上げる～松本山雅FCの歩み～長野県松本市」

3. 本懇談会の進め方

本懇談会では、町田市スポーツ施設整備に関して「(1) 地域の活性化に係るスポーツイベントの開催に関すること」「(2) 見るスポーツの充実を図るために必要な施設の整備に関すること」について検討を行った。

検討にあたっては、屋内施設（体育館、プール）と屋外施設（陸上競技場、野球場）について意見交換を行い、意見は短期的視点と長期的視点に分けて整理した。

スポーツ施設の整備にあたっては、市民の「する」スポーツの場の確保とともに、「見る」という視点で検討していくことも重要であるという認識を共有し、議論を進めた。「見る」スポーツを中心としつつ、「する」スポーツ、「支える」スポーツについても適宜範囲を広げて意見交換を行った。

施設ごとの意見を基に町田市の「見るスポーツ」と「地域の活性化に係るスポーツイベント」について、基本的な方向性（総論）と各施設についての提言（各論）として次のとおりまとめた。

懇談会における主な意見

- ・「見る」スポーツにフォーカスして施設を考えていくということは非常に開明的である。
- ・町田市の次の都市戦略として、スポーツを活用して町田で暮らす人々の生活をどうデザインしていくかを考えることは重要である。
- ・施設を身近に感じられる町田ならではのしかけができるとよい。
- ・ホームタウンチームを応援する一体感は見るスポーツの魅力である。
- ・町田市内は 10 地区に分かれているが、地区対抗の取組を実施するといったアイデアがあってもよい。
- ・地域経済の活性化にも寄与できるとよいと考え、今後も取組を継続していく。
- ・観光振興の視点から、どのように競技場に来ていただいて、お金を落とさせていただくかを考えている。
- ・ゼルビアが J 1 に昇格した場合の 49 億円という経済効果は、行政としても 5,000 席増席によるメリットの 1 つの裏付けのデータとなる。

3-1. 基本的な方向性(総論)

基本的な方向性(総論)は以下の4点に整理し提言としてとりまとめた。

①「見るスポーツ」を楽しめる場づくりとスポーツを通じたにぎわいの創出

町田市内のスポーツ施設は「見る」視点での環境整備について十分な検討が行われてこなかった。

今後は、多くの市民がスポーツ観戦を楽しむことで施設内外のにぎわいを創出することを目指すとともに、新たな視点での課題の整理にも取り組み、「見る」スポーツを楽しめる場づくりに取り組んでいくことが望ましい。

②ホームタウンチームにとっても魅力的な環境を整備する

町田市には市の貴重な資源といえる、トップリーグに所属するクラブが3つあり、ホームタウンチームとしても活動している。

今後もホームタウンチームが活動していけるような魅力的な施設・環境を整えとともに、チームが町田市民の誇りとなるよう市がサポートする環境を一層充実していくことが望ましい。

③町田市の社会課題を総合的に解決していく拠点としての整備方針を検討する

「見る」スポーツ環境の整備にあたっては、施設周辺の住民の理解をはじめ、騒音問題や交通渋滞などまちづくりに関わる様々な社会課題に直面することが考えられる。

今後は、スポーツの魅力を活かすとともに、市内のスポーツ施設を町田市の様々な社会課題(健康づくり、福祉、産業振興等も含む)を「総合的に解決していく拠点」として整備するという視点を持って、整備方針を検討していくことが望ましい。また、町田市内に波及していく影響を的確に把握する体制の整備も検討できるとよい。

④町田市のスポーツ施設それぞれの状況をふまえ、優先度の高い施設から整備の方針を検討していく

町田市の基本計画(「まちだ未来づくりプラン」)の後期実行計画である「5ヵ年計画 17-21」など、スポーツの環境整備にあたっては、市内の各部署により事業等が進捗している。

関連する市の計画期間等を基準として、短期的な視点と長期的な視点で状況を整理し、優先度の高い施設から整備の方針を検討していくことが望ましい。

3-2. 各スポーツ施設についての提言(各論)

(1)陸上競技場について

-提言(案)-

①見るスポーツの充実を図るために必要な施設の整備に関すること

トップレベルの競技を観戦する機会を創出し、 スポーツの魅力発信の拠点とする

短期的には

- ◆付加価値のあるシートの増設など、来場者の満足度向上につながる施設の整備に取り組む。
- ◆地域住民への影響をふまえつつ、ホームタウンチームも効果的に活用できる機能を整備していく。

長期的には

- ◆町田市の様々な社会課題を総合的に解決していく拠点として、多機能複合化という視点も念頭に置く。
- ◆見るスポーツを盛り上げるランドマークとなる施設を整備する。

②地域の活性化に係るスポーツイベントの開催に関すること

観戦環境の充実を活かした魅力的なイベントを企画、開催する

短期的には

- ◆観戦環境を楽しめる場づくり、にぎわい創出に取り組む。

長期的には

- ◆資源や環境に恵まれた町田らしい新たな取組を工夫する。

1 施設の概要

400メートルトラック(全天候型ウレタン舗装)8コース、7,600㎡のフィールド、メインスタンド2,632席、バックスタンド他7,990席、合計10,622席を収容する施設。公益社団法人日本プロサッカーリーグ(以下、「Jリーグ」という。)ディビジョン2(以下、「J2」という。)の試合開催可能施設であり、また、公益財団法人日本陸上競技連盟による第3種公認陸上競技場となっている。

2 現状

- ・見るスポーツの観戦者は、2017年度85,177人
- ・近隣市(相模原市、川崎市、横浜市)には同等以上の設備を有した競技場がある。
- ・ホームタウンチームの興行の場となっているほか、市民のスポーツイベントも開催されている。

- ・ Jリーグディビジョン1（以下、「J1」という。）開催スタジアムの規格である「収容人員1万5千人以上」を満たしていない。
- ・ 陸上競技場で興行を行うFC町田ゼルビアがJ1に参加する場合の経済効果は、年間49億6,300万円と試算されている。

3 課題

① 町田らしい施設整備の方針が必要

- ・ バックスタンド側を全てVIP席にするくらいの柔軟な発想など、来場者の満足度向上につながる施設の整備方針を検討する必要がある
- ・ 来場者をもてなし、満足度を向上させる仕掛けやサービス面での工夫が必要
- ・ 市全体で見るスポーツを盛り上げるランドマークとなる施設の整備は、今後重要になる

② 関係団体の横のつながりを強めていく

- ・ スポーツを通じて地域を活性化していくためには、ホームタウンチームなどのスポーツ関係団体だけでなく、町内会自治会や子ども会などの地域で活動する団体同士の横のつながりを強めていくことも重要
- ・ スポーツを通して地域のつながりを強めたり、より一層市外に町田の魅力をPRしていくためには、ホームタウンチーム3チームが横のつながりを強化していくことも重要

4 懇談会における主な意見

- ・ 現在の状況では、観戦者の満足度を向上させるための十分な施設・機能を有しているとはいえず、「見る」スポーツのためのスタジアムとは言えない。
- ・ 多くの子ども達にスタジアムに来てもらうことも重要だと感じている。
- ・ 平日にほとんど人がいない。日ごろから人が集う場になっているとよい。
- ・ 市民の拠り所となるようなコンセプトが必要
- ・ 避難場所としての位置づけ、もしもの時に市民が足を運べるシンボルになることも重要である。見るスポーツを盛り上げるランドマークとなる施設の整備は、今後重要になる。
- ・ 陸上競技やサッカー以外でも人が集い、施設を身近に感じられる町田ならではの仕掛けができるとうい。
- ・ 単にプラスチックの席を5,000席増やしただけでは、町田市のスポーツを見る環境は盛り上がりがない。全国の事例に追いつくのではなく追い越す取組を検討していけるとよい。資源や環境に恵まれた町田だからこそ、町田らしい新たな取組を工夫していけるとよい。
- ・ 町田市の様々な社会課題を総合的に解決していく拠点として、多機能複合化という視点も念頭に置いておけるとよい。
- ・ サッカー観戦に来る人は地域愛着が高いという結果やサッカー観戦を通して地域愛着が高まるといった傾向も見えてきている。

(2) 体育館について

- 提言(案) -

① 見るスポーツの充実を図るために必要な施設の整備に関すること

選手や運営側にも配慮し、「見るスポーツ」の場として整備しつつ、新たな施設整備も視野に入れた検討を行う

短期的には	◆ 総合体育館で「見る」スポーツを開催するには観戦の環境、選手の環境、運営上の環境設備が不十分な状況にあることから、それらの視点に配慮した設備の拡充を検討する。
長期的には	◆ 総合体育館の施設利用率は 90% を超え、飽和状態にある。「見るスポーツの場」と市民がスポーツ活動を行う「するスポーツの場」が混在していることも原因と考えられることから、それらのすみ分けを行う方法を検討する。 ◆ 体育館における「見るスポーツ」の充実に関しては、総合体育館の現状を鑑みると、するスポーツの場として市民がスポーツ活動を行うこととし、見るスポーツを行う環境は別の場所を検討する。

② 地域の活性化に係るスポーツイベントの開催に関すること

地域に身近な「するスポーツ」の場として整備充実を図る

短期的には	◆ 「プロチームが育つ」、「市民に夢を与える施設」という視点で施設設備の充実を検討していく。
長期的には	◆ 商店会や町内会・自治会とイベント等の主催者が連携し、地域の活性化の方策を検討していく。

1 施設の概要

① 総合体育館

1990 年 10 月に開館。全国規模の各種大会開催が可能な 2,800 余の観客席を備えたメインアリーナをはじめ、サブアリーナ、小体育室、第 1・第 2 武道場、和洋弓場を備え、個人の体力に合った運動の処方や、指導を受けることのできるトレーニング室を擁した総合スポーツ施設となっている。

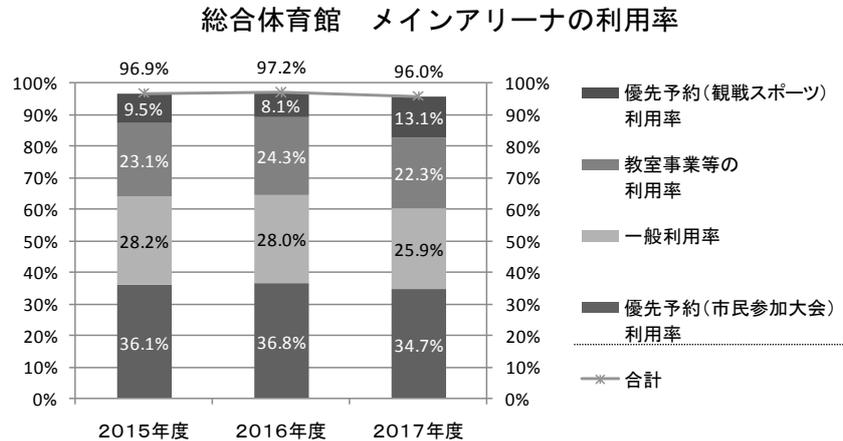
② サン町田旭体育館

アリーナの 1 階には 504 席の可動式観覧席と、2 階には 102 席の固定式観覧席及び 3 台の車椅子用のスペースがある。アリーナは、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球等ができる。多目的室では、エアロビクス、健康体操、各種ダンス等ができる

ほか、トレーニング機器を完備したトレーニング室がある。

2 現状

- ・ 体育館の利用率が高い
- ・ 一般利用率が 25.9%、観戦スポーツ利用率は 13.1%となっている
- ・ 市民の利用要望も多い



3 課題

①総合体育館では見るスポーツとするスポーツが混在している

- ・ 「見るスポーツ」が開催可能な総合体育館では、市民の「するスポーツ」の要望も多く、「する」と「見る」が混在している。そのため、施設の役割が明確になっていない。
- ・ 観戦スポーツの施設利用率が低い。

②見るスポーツとしての環境が十分でない

- ・ 体育館は「見る」施設としてのPRが十分でない。
- ・ 大きな大会等を行える場所が、43万人の人口に対して総合体育館1つしかない。(近隣の相模原市や藤沢市では、固定の観客席を500席以上有する体育館が2つずつある。)
- ・ 「見るスポーツ」が開催可能な総合体育館では、映像装置や照明、音響、選手控室等の運営環境(興行的な視点、トップアスリーの視点)が十分でない。
- ・ バリアフリーやトイレ等の観戦環境が十分でない。
- ・ 興行を行うにあたり、大型映像装置や諸室が不足するなど、これまでは想定していなかった課題が出てきている。

4 懇談会における主な意見

- ・ 総合体育館は「見る」を想定したつくりとはなっていない。将来的には「見る」に特化した施設の新設を検討してもよいのではないか。
- ・ 「プロチームが育つ」、「市民に夢を与える施設」という視点で、設備の充実は今後検討していてもよいのではないか。
- ・ 市民の「する」施設は別にあってもよいのではないか。「サン町田旭体育館」のような施設を新設するなど、小さくても「する場」を増やすことを考えてはどうか。

(3)野球場について

-提言(案)-

①見るスポーツの充実を図るために必要な施設の整備に関すること

広域大会やプロの練習場として「見る」機会を創出する

短期的には	◆市民の「する」場として利用しつつ、プロチームの練習の場としての利用を推進する。
長期的には	◆各種大会の開催場所として、利用率を上げ、市民が「する」場所としての魅力や満足度の向上に取り組む。

②地域の活性化に係るスポーツイベントの開催に関すること

「見る」場所として関心を高めつつ利用促進を図る

短期的には	◆「するスポーツ」の場所としての利用促進を図る。
長期的には	◆「見る」機会の創出を通じて市民の認知度や「あこがれ」を高め、利用促進につなげていく。

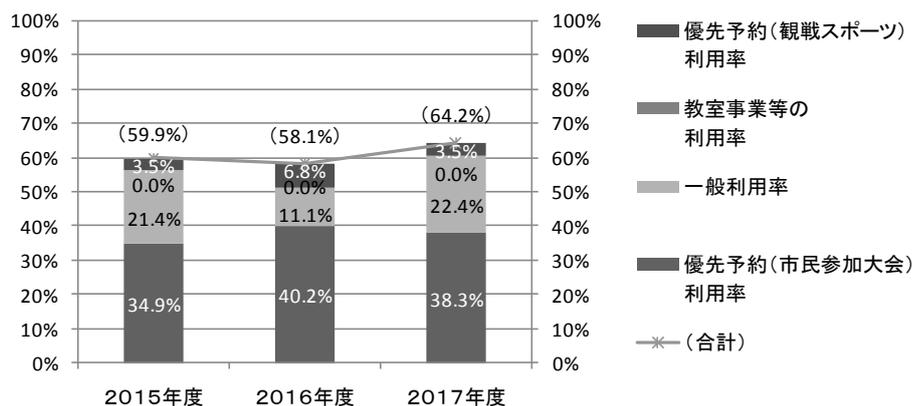
1 施設の概要

小野路野球場は、町田市内で唯一硬式球が使用できる野球場となっており、高校野球の予選大会が開催されるなど、本格的な大会にも利用が可能となっている。町田市民球場は一般軟式野球、ソフトボールに使用可能、三輪みどり山球場は一般軟式野球、ソフトボールに使用可能で夜間照明設備を有している。そのほか同様の規模で一般軟式野球やソフトボールが実施できる野津田球場、鶴川球場、藤の台球場、忠生公園ソフトボール場等がある。

2 現状

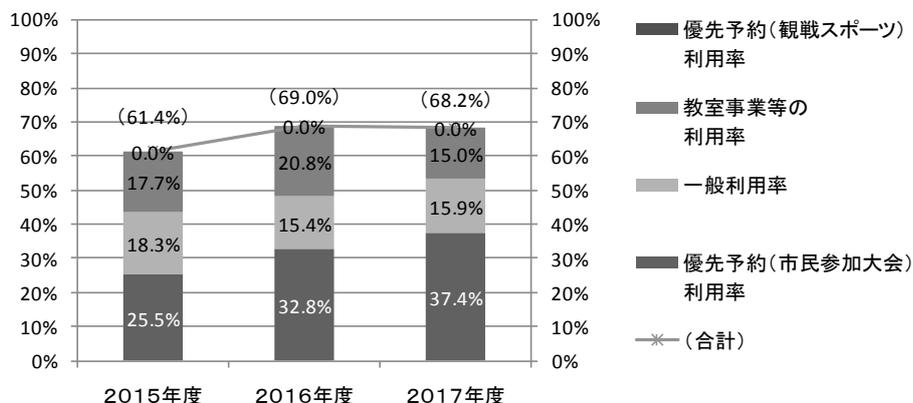
①小野路球場の利用率の推移

- ・観戦スポーツの利用率は、2017年度は3.5%となっている。
- ・市民参加大会の利用の割合が大きい。



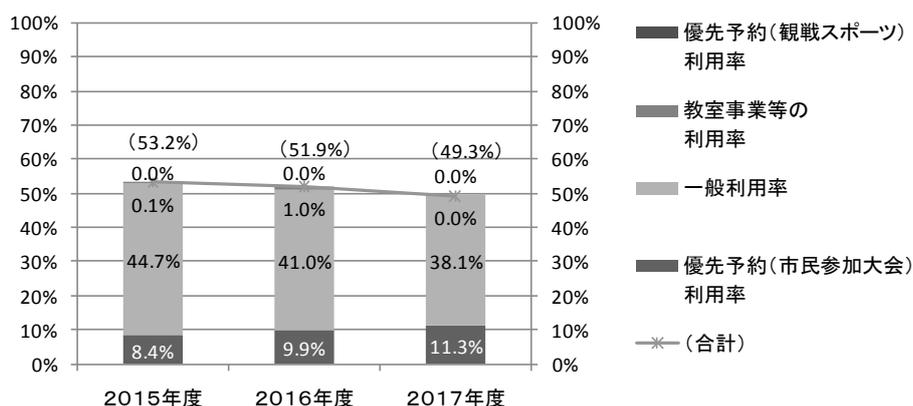
②町田市民球場の利用率の推移

- ・観戦スポーツの利用はない。
- ・市民参加大会の利用の割合が大きい。



③三輪みどり山球場の利用率の推移

- ・観戦スポーツの利用はない。
- ・一般利用の割合が大きい。



3 課題

①施設の目的の明確化

- ・市としてどのような施設にするのかが明確でない。
- ・人を呼ぶことを目的にするのであれば、観客席を増席できるとよい。合わせて、駐車場の整備も必要になる。

4 懇談会における主な意見

- ・市民がスポーツをする場所、スポーツを通じて交流する場所という位置づけ、市民がスポーツを「する」場としての施設でよいのではないか。
- ・平日にほとんど人がいない。日ごろから人が集う場になっているとよい。
- ・人を呼ぶことを目的にするのであれば、観客席を増席できるとよい。
- ・見るという視点で考えるとプロ野球の2軍戦開催は魅力的だと思う。しかし、開催頻度や近隣市で大規模に野球場が整備されたことなどを考えると、町田市として野球場の観客席の整備は、優先順位は高くないのではないか。

(4)プールについて

-提言(案)-

①見るスポーツの充実を図るために必要な施設の整備に関すること

「見るスポーツ」の場所とするかの検討が必要

短期的には	◆広域的な大会を開催する基準を満たしておらず、「見るスポーツ」の場として利用を進めるのは難しいと考えられることから、どのような位置づけとするか検討する必要がある。
長期的には	◆近隣市の状況や費用対効果を勘案して、「見るスポーツ」の場所を整備するか検討する必要がある。

②地域の活性化に係るスポーツイベントの開催に関すること

身近な「するスポーツ」の場として位置付け利用促進を図る

短期的には	◆室内プールは今後も市民が利用できる施設として、現状を維持していく。
長期的には	◆室内プールを新たに利用したいと思う市民を増やす取組を検討する。

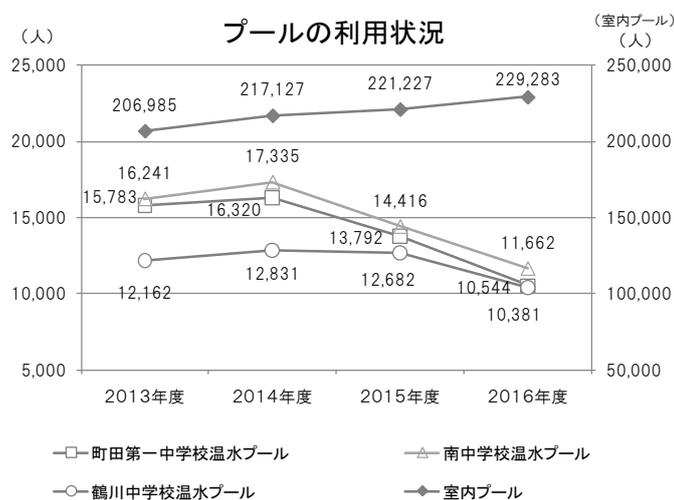
1 施設の概要

町田市内の温水プール施設は、町田市立室内プールのほか、町田第一中学校、南中学校、鶴川中学校の温水プール施設を学校活動に支障のない範囲で一般に開放している。

市立室内プールは町田リサイクル文化センターのゴミ焼却余熱を利用した温水プールで、公益財団法人日本水泳連盟公認の50mプール、25mプール、幼児用プール、健康体力相談室、トレーニング室がある。

2 現状

- ・室内プールは「見るスポーツ」の場としての機能を充実した施設となっていない。
- ・観戦スポーツを実施する上位の公認に該当する施設が近隣市にある。
- ・室内プールの利用者数は増加している。
- ・中学校温水プールの利用者数は、開放日数が減少したことにより 2014 年度から減少している。



3 課題

①室内プールの位置付けが明確でない

- ・「見るスポーツ」の場とすべきかどうか検討する必要がある。
- ・今後どのように改修していくかを検討する必要がある。

4 懇談会における主な意見

- ・市民がスポーツをする場所、スポーツを通じて交流する場所といった「するスポーツの場」として位置づけてよいのではないかと。
- ・中学校温水プールは学校利用以外での利用時間の拡充やトレーニング施設の併設を検討するなど、「するスポーツの場」の機能を拡充してもよいのではないかと。
- ・市内3中学校の温水プールは総合型地域スポーツクラブの拠点とするなど、地域の人がより一層利用しやすい環境としていってはどうかと。

4. 参考資料

(1) 懇談会の開催経過

	日時	議題
第1回懇談会	2017年 11月14日(火) 18:30~20:00	1. 開会 2. 委員紹介 3. 事務局より 4. 会長及び副会長の選出 5. 意見交換 ・既存計画の説明 ・町田市スポーツ施設の現状と課題について 6. 閉会
第2回懇談会	2017年 12月19日(火) 18:30~20:00	1. 開会 2. 事務局より 3. 前回議事要旨の確認 4. 意見交換 ・体育館における見るスポーツの充実について ・プールにおける見るスポーツの充実について 5. その他 6. 閉会
第3回懇談会	2018年 1月26日(金) 18:30~20:00	1. 開会 2. 事務局より 3. 第2回懇談会議事要旨の確認 4. 意見交換 ・野球場における見るスポーツの充実について ・陸上競技場における見るスポーツの充実について 5. その他 6. 閉会
第4回懇談会	2018年 2月22日(木) 18:30~20:00	1. 開会 2. 事務局より 3. 第3回懇談会議事要旨の確認 4. 意見交換 ・提言書(案)について 5. その他 6. 閉会

(2)委員名簿

氏名	団体名・所属	役職
かわさき としき 川崎 登志喜	玉川大学教育学部	教授
なみこし いつき 浪越 一喜	帝京大学教育学部	教授
まの よしゆき 間野 義之	早稲田大学スポーツ科学学術院	教授
やまもと まさみ 山本 正実	一般財団法人 町田市体育協会	理事長
おおとも たけひさ 大友 健寿	株式会社ゼルビア 事業部	部長
せまの じゆんた 関野 淳太	株式会社 CASCAVEL FUTSAL CLUBE 事業部	部長
ながとも ようじ 永友 洋司	キヤノンラグビーフットボールクラブ	ゼネラルマネージャー
あべ とおる 安部 徹	町田市スポーツ推進委員	会長
いちかわ けんいち 市川 健一	公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会	副会長
かぬま ゆりえ 鹿沼 由理恵	市内在住トップアスリート(リオパラリンピック銀メダリスト)	
あたち ひろみ 安達 廣美	町田市町内会自治会連合会	会長
おかだ さかえ 岡田 栄	NPO 法人 CCCNET	事務局長
さとう まさし 佐藤 正志	町田商工会議所	専務理事
おおくぼ あきら 大久保 明	一般社団法人 町田市観光コンベンション協会	事務局長

(3)近隣市との施設の比較

①陸上競技場

施設名称	所在地	施設概要	大会開催実績	その他
陸上競技場	町田市	・トラック 400m×8 コース (全天候型ウレタン舗装) ・フィールド 7,600 m ² ・補助競技場 6,300 m ² (多目的広場) (収容人員) メインスタンド 2,632 席 バックスタンド他 7,990 席	・明治安田生命 J2リーグ ・ジャパンラグビ ートップリーグ	・日本陸上競技 連盟第3種公認 ・J2仕様
相模原麻溝公園 競技場 (相模原ギオンスタジ アム)	相模原 市	1周400mの全天候型舗装 トラック、サッカー・ラグビー・ アメフト等の試合も行える 天然芝フィールド、15,300 人 収容可能なスタンドを兼ね備 える。 ※1	明治安田生命 J3リーグ	・日本陸上競技 連盟第2種公認 ・J3仕様
川崎市等々力 陸上競技場	川崎市	3種公認全天候トラック 400m 8レーン フィールド(サッカー併用) 大型映像装置 6.3m×20.0 m スタンド収容人員 約 22,000 人 夜間照明4基 ※2	・明治安田生命 J1リーグ ・日本陸上競技選 手権大会 ・アメリカンフットボ ール・ワールドカ ップ	・日本陸上競技 連盟第3種公認 ・J1仕様
横浜国際総合 競技場 (日産スタジアム)	横浜市	観客席は、国内最大の 72, 327 席。フィールド内の興奮 は、ハイビジョン自動走行カメ ラなどから両サイド 2 基の大 型映像装置へ映し出されま す。さらに、528 台のスピーカ ーから伝わる音響で、臨場感 を盛り上げます。観客席は、4 分の 3 が屋根に覆われていま す。 ※3	・明治安田生命 J1リーグ ・2002 FIFA ワー ルドカップ ・日本陸上競技選 手権リレー競技 大会 ・ジュニアオリンピ ック陸上競技大 会	・日本陸上競技 連盟第1種公認 ・J1仕様

※1 相模原ギオンスタジアム(相模原麻溝公園競技場)HP

※2 川崎市建設緑政局「等々力緑地概要」H25.4.1 現在

※3 施設概要 | 日産スタジアムHP

②体育館

所在地	施設数	施設名称	アリーナ		競技面数			観客席数 (席)
			諸室名称	面積 (㎡)	バドミントン (面)	バスケットボール (面)	バレーボール (面)	
町 田 市	2	総合 体育館	メイン アリーナ	2,400	12	3	4	固定 1,776 可動 1,008
			サブ アリーナ	1,101	6	1	—	
		サン町田 旭体育館	アリーナ	1,265.4	8	2	2	可動 504
		合計	4,766.4	26	6	6	3,288	
相 模 原 市	5	総合体育 館	大体育室	2,214	12	3	4	1,598
			中体育室	1,064	6	1	2	
			小体育室	629	4	1	2	
		北総合 体育館	体育室	1,887	12	2	3	1,006
		市体育館	体育室	570	4	1	2	
		牧郷 体育館		551	2	2	2	
		沢井 体育館		551	2	2	2	
		合計	7,466	42	12	17	2,604	
藤 沢 市	2	秋葉台 文化 体育館	第1体育 室	2,093	12	3	4	固定 3,000 移動 1,000
			第2体育 室	630	3	1	1	
		秩父宮 記念 体育館	メイン アリーナ	1,789	10	2	2	787
			サブ アリーナ	730	4	1	1	
		合計	5,242	29	7	8	4,787	

③野球場

施設名称	所在地	グラウンド仕様	広さ(m)	照明灯(基)	収容人員(人)	駐車場(台)
小野路球場	町田市	内野 土 外野 天然芝	中堅 120 両翼 93.5	6	内野 1,999 外野 — 合計 1,999	125
ダイワハウススタジアム八王子	八王子市	内野 土 外野 天然芝	中堅 122 両翼 98	6	内野 3,126 外野 8,163(芝生席) 合計 11,289	※
ネッツ多摩昭島スタジアム	昭島市	内野 土 外野 天然芝	中堅 121 両翼 97	6	内野 1,274 内野 1,240(芝生席) 外野 2,798(芝生席) 合計 5,312	160
立川公園野球場	立川市	内野 土 外野 天然芝	中堅 120 両翼 97	4	内野 外野 合計 10,000	※
府中市民球場	府中市	内野 土 外野 天然芝	中堅 120 両翼 95	6	内野 外野 合計 5,000	※
サーティーフォー相模原球場	相模原市	内野 土 外野 天然芝	中堅 120 両翼 95	6	内野 8,064 外野 8,000(芝生席) 合計 16,064	315
大和スタジアム	大和市	内外野 人工芝	中堅 120 両翼 95	6	内野 5,000 外野 6,000(芝生席) 合計 11,000	311
サーティーフォー保土ヶ谷球場	横浜市	内野 土 外野 天然芝	中堅 120 両翼 95	6	内野 7,179 外野 5,418(芝生席) 他 2,220(立見席等) 合計 14,817	394
バッティングパレス相石スタジアムひらつか	平塚市	内野 土 外野 天然芝	中堅 120 両翼 91	6	内野 8,000 外野 8,000(芝生席) 合計 16,000	1,000

※ 観客者が駐車できる駐車スペースはなし。

④プール

施設名称	所在地	施設概要	観覧席等
室内プール	町田市	50 m 公認プール、25m プール、幼児プール(すべり台)、	観客席 773 席
横浜国際プール	横浜市	メインプール(50m×10 コースの国際公認プール)、サブプール(50m×8 コース(通常 25m×水深 1.0m 25m×水深 2.5m の2面)、25m×25m 水深 5m のダイビングプール	・メインプール 約 4,000 席の観客席 (国内最大級の国際公認プール) ・サブプール 約 400 席の観客席
さがみはらグリーンプール	相模原市	・50m プール 50m×25m 10 コース 水深通常 1.2m (可動床) ・飛び込みプール 22m×25m 水深 5.0m ~0.4m (可動床) ・25m プール 25m×17m 水深 1.2m	・50m プール東・西 観覧席 2043 席、 立見席 1000 人相当 ・25m プール観覧席 椅子席 56 席

(4)その他資料

- ・ 1～4回に提示した資料やデータ等

